

九州初の試み「教員養成講座」始動

令和8年4月15日から県立玖珠美山高校で九州初の試みである「教員養成講座」が開講しました。この講座は、玖珠町教育委員会・九重町教育委員会・玖珠美山高校が連携し、座学、インターンシップ、模擬授業など多様な講座を通じて、1年間かけて教員の基礎知識やスキルだけでなく、やりがいや魅力、そして教員が直面する課題まで総合的に学ぶことのできる場となっています。講師は大分県教育委員会や大分大学、別府大学、福岡教育大学から派遣され、また近隣の小学校や特別支援学校との懇談も講座に組み込まれています。

初年度である今年度の受講生は、3学年合わせて13名で行われます。講座は部活動と同じく課外活動という取扱いで行われるため、教職を志す生徒たちの主体的な学びの場となっています。

深刻化する教員のなり手不足

講座開設の背景にあるのは深刻化する教員不足と教員志願者の減少にあります。

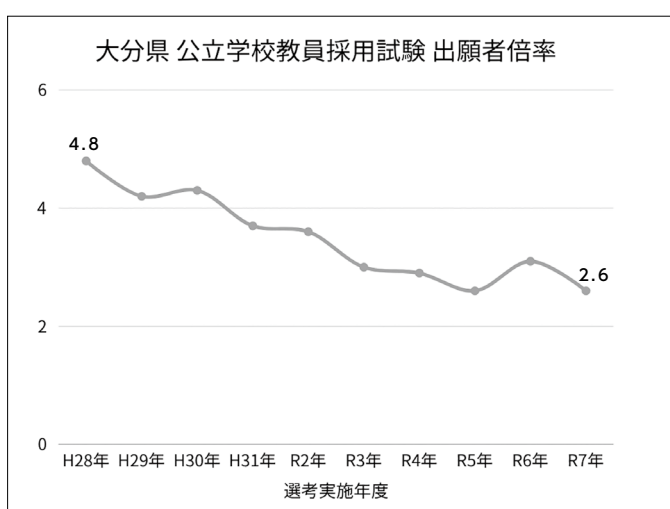
文部科学省が3月に公表した『令和7年度「教師不足」に関する実態調査』では、年齢構成に起因する退職者の増加や特別支援学級の増加、教育環境に合わせた指導体制の充実等の要因から全体として教員の需要が増加している状況にあります。

その一方で、教員志願者は全国的に減少傾向にあり、大分県内においても公立学校教員

採用試験の出願者倍率は平成28年の4.8倍から令和7年度では2.6倍まで低下しています。わずかな上昇がみられる年もあるものの、この10年間を通じて全体的に減少傾向にあります。

また令和7年5月1日時点で各都道府県・指定都市等の教育委員会において学校に配置することとしている教員の数に対し大分県内の小学校で欠員となっている人数は28人、中学校では13人となっています。

教員不足が加速する中で、玖珠郡内においても地元出身者である教員が少ないという現状もあり、地域に根差した教員志願者の育成を目的とし、「教員養成講座」が開設されました。



▲大分県教育人事課公表
 (出願倍率) = (述べ出願者数) / (採用予定者)

学期	開催日	講座名
1学期	4月15日	オリエンテーション (全体説明)
	5月13日	開校式 講義①「現代社会と教師の役割」
	5月20日	講義②「教師の仕事の全体像」
	5月27日	ゲスト講師①「若手教員・教育実習生との座談会」
	6月3日	ゲスト講師②「多様な校種の先生に聞く」
	6月10日	ワークショップ①「理想の教師像を描く」
	7月1日	講義③「子どもの発達段階の理解一言葉の教育を中心に」
	7月8日	地域連携①「玖珠・九重の教育を知る」
	7月15日	1学期の振り返り（発表）
夏休み		学校ボランティア活動
2学期	8月26日	夏休み体験活動報告会
	9月2日	講義④「キャリア教育入門」
	9月9日	演習①「授業づくりの第一歩①」
	9月16日	演習②「授業づくりの第一歩②」※模擬授業
	10月7日	学校インターンシップ①（事前指導）
	10月14日 ～15日	学校インターンシップ②
	10月21日	学校インターンシップ③（事後指導）
	11月4日	演習③「生徒指導の場面を考える」
	11月11日	探究活動①「テーマ設定」
	12月2日	探究活動②「情報収集と分析」
	12月16日	2学期の振り返り（発表）
3学期	1月20日	探究活動③「まとめと発表準備」
	1月27日	成果発表会
	2月3日	
	2月24日	特別講義「これからの君たちへ」
	3月3日	閉校式（修了式）
時期は検討中		大学訪問

▲令和8年度玖珠美山高校 教員養成講座計画表
※開催時期については学校行事によって前後あり

受講生の声

あそうこのは
九重町出身の麻生采花さん（2年生）
志望：小学校教員

Q. この講座に参加しようと思った理由はなんですか？

A. 小学校の先生の『わかりやすい授業』と『距離感の良さ』に憧れて教職を志すようになりました。この講座で教職への理解を深めて、受験に活かしたいと考えています。

Q. 実際に受講してみて心境に変化はありますか？

A. 実際に働いている先生の話聞いてみると、教職に対してのイメージがより具体的になったと感じます。

Q. 同じく教員を志望している後輩たちへ、この講座を勧めたいですか？

A. はい。自分一人で考えるだけではイメージできない部分があり、実際に働く先生のやりがいや喜びを聞くことができるのが講座の良いところだと思います。

Q. 将来はどんな先生になりたいですか？

A. 生徒の笑顔を作ることのできる先生になりたいです。

6月10日開催 ワークショップ 「理想の教師像を描く」



参加者

- 受講生6名
- 小学校・中学校・高校・特別支援学校 教員4名

目的

第4回の講座「多様な校種の先生に聞く*」を踏まえて、「なりたい教師像」や受けたい授業について語り合い、教職への未来像を具体化させる。

※小学校・中学校・高校・特別支援学校の教員を招き、仕事のやりがい、苦労話を聞くという内容

タイムスケジュール（50分）

- グループでの質問タイム（10分）
生徒3名教員2名の2グループに分かれ、前回の講座を踏まえ質問を行う
- ワーク①「心に残るあの先生」について語る（15分）
「これまで感動した授業」や心に残る先生の言動、エピソードを付箋に書き出し共有する
- ワーク②「なりたい教師像」を言語化する（15分）
ワーク①を踏まえ、「自分ならどんな先生になりたいか」議論。各自で「私の理想の教師像」をワンフレーズにまとめる。
- 全体共有・発表（5分）
- 総括・リフレクション（5分）
各教員からワークの講評、受講生へのメッセージ



取材メモ

少人数でのグループワークのため、空気が固くなりすぎず非常に和やかに進行していたのが印象的でした。

ワークでは「保護者の方と接して大変だったことは？」等少し踏み込んだ質問もありました。先生方は『答えられない部分もある』と前置きしながらも、自分たちの考えや判断の過程を丁寧に説明していました。その過程で、教員たちが児童・生徒と向き合う際の葛藤や工夫、そして教職の難しさと向き合う姿が、受講生たちに強く印象付けられていたように感じました。